

長風叢書第一三七篇

歌集
藍しじら

香川貞子

短歌新聞社

歌集 藍しじら 長風叢書第137篇

昭和61年 8月16日発行

著 者 香 川 貞 子

〒330 埼玉県大宮市吉野町1—344—16

発 行 者 石 黒 清 介

印 刷 所 日 本 文 芸 社 印 刷

製 本 所 菊 川 製 本 ㈱

発 行 所 短 歌 新 聞 社

〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9

振替口座 東京 5—21683番

電 話 (03) 312— 1 8 5 番

定価 2500円

目

次

I
稚児人形

昼餉の窓

梅雨の家居

稚児人形

婚約

日々々

遠い兄

年新しく

黄砂

こぶしの花

二 四 七 四 元 三 元 哭 三

Ⅱ

米寿の母	六〇						
近江の仏像	五九						
衿 芯	六						
挽 歌	七						
京の雨							
春の渚	九						
越後路	八						
歌碑訪い	四						
春立つ	八						
京の雨	三						

Ⅲ

母の枕辺	一〇〇
益子	一〇五
佐原	一〇九
区切りの心	一二三
海辺の桔梗	一二七
石仏の里	一三〇
花菖蒲	一三六
冬ざくら	
ふたたびはなし	一三七
木犀	一四三

冬　　鳴　　七　　冬　　鎌　　白　　朝　　尼　　拈　　光　　冬
の　　門　　草　　ざ　　倉　　　　　の　　　　　大　　る　　の
風　　橋　　寺　　く　　倉　　雲　　浜　　寺　　鏡　　風　　木

一九六　一九〇　一八七　一八三　一七七　一七三　一七〇　一六五　一五七　一五三　一四八

跋	二〇一
石井 利明	二〇二
あとがき	二〇九

藍
し
じ
ら

I 稚児人形

昼餉の窓

われ立てば百羽の鶏のみな同じ姿勢に鋭き視
線向けたり

昼餉する窓よりいつも見ゆる畑の麦黄ばみたり
晴天つづく

竿竹を売る呼び声のリズムよく梅雨の晴間を
遠ざかりゆく

いつか眠り入りたるらしきつけしままのテレ
ビに笑わぬ嘶家の顔

降り続く秋の雨の日豆腐売る老の指先しろく
潤ほとびつ

梅雨の家居

覚めてより追いゆく夢の他愛なし夜にふる雨
の音の静けく